

「今、吉塚・玄海・地島のゆりの樹に新しい若葉が育ち始めています。
愛らしく、凛としたゆりの樹の花が咲くまで、
皆で、水となり、太陽となり、大地となり育てていきましょう」
—ゆっくりと、焦らず、確実に、ゆっくり歩けば、足跡も残る—

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

春爛漫、新しい年度がやってまいりました。平成21年度を迎えるにあたり、今日ここに新しい園児、保護者の方を迎えて、新年度がスタート出来る事を心よりうれしく思い、感謝申し上げます。「新生ゆりの樹幼稚園」がスタートし、ここに、2年目をむかえ、今、ここにめぐり合ったことに心から嬉しいです。

一粒の花の種は、愛情をかけて育てれば、いつか大樹になります。
机の上において眺めても花は咲きません。適宜な時期に、
適宜な土の深さに埋め、適宜な水と光に包まれて始めて花は咲きます。
同じように埋めても、同じようには咲かないかもしれないし、
枯れてしまうかもしれません。自分だけどんなに努力しても、
それだけでは結果は生まれません。どうしても周囲の協力が必要です。

今、こうして生きているのですら、人の支えと不思議な縁でいかされているのですから。
それがわかれば謙虚に生きられます。それがわかれば、感謝を持って行動することができます。



子どもたちも、保護者の方の素晴らしい、愛を受けて、家庭教育の根づくりをされてきたことでしょう。新しい希望に向かって、入園、進級の季節は、ホップ、ステップ、ジャンプのステップの時期となります。根づくりの時期を終えて、いよいよ、若芽が出る季節の到来です。この年度替わりのいまがいちばん大切な時期です。だからこそ、今一度、ゆりの樹幼稚園の教育をご家庭でも見直してほしいと思います。



★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「真の自立への道」(個別性と共感)
- 2に「知ることの喜びを与えること」(自己成長の継続と問題解決能力)
- 3に「感動と思い出を作ること」(生命の尊重と危機管理能力)

★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

この三つの柱、三つの教育の実現の為に、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。

★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個性→共感→自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育です。

自分で決めるためには、「小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在



子どもたちのかかわりの中で大切にしたい『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事、「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。なぜそうしたほうが良いのかを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。「なぜ」を教えないとルールだけを守る人間になるのです。そして、自分のことをわかってくれた時の、ほっとした体験をした時の気持ちが子どもの心を、**愛**を育てます、気持ちよいという心、感情、心地良さを育てる事によって心が育つのです。

園や家庭生活を通して、子どもは自分の心に修正を加えながら、「最後まであきらめない心、苦しくても悲しくても、つらくてもそれを乗り越えていく心」を会得し、「自分が自分であるというアイデンティティーを確立」していくのです。それが『育てる』つまりは『自ら育つ』ということなのです。

そして、この実現のためには、平成19年度に作成した「子どもの心とからだの健康を考えた10E」が根本にあります。これは、ひとが人として生きていく為にとっても大切な、生き方、考え方、教育の根幹であると考えています

★ゆりの樹幼稚園が考える10E

自分の感情に気づくこと、自分で決断し、自立すること、人間力をつけること、表現し伝えること、楽しむこと、これができれば、「輝く太陽目指し、すくすく伸びる大樹のように、未来の夢と希望に向かって、愛と勇気を忘れず、自分の人生を、この地球を自分の足で歩いていくことができる人間」に、教師も子どもたちも育ちます

ありがとうと言える人は素直です。ごめんなさいと言える人は謙虚です。わかりません、教えてくださいと言える人は自己受容できた人です。そんな、子どもたちを育てたいです。そんな教師集団でありたいです。

吉塚57年目、玄海、地島2年目、これからも、ひとが人として育っていく間には楽しいこと嬉しいことの他に、いやなこと、辛いこと、そして成功も失敗も待っていることでしょう。そして、だからこそ、どんなことにも、輝く太陽めざし、夢と希望に向かって、愛と勇気を持って、この地球を自分の足で進んでほしいと思います。

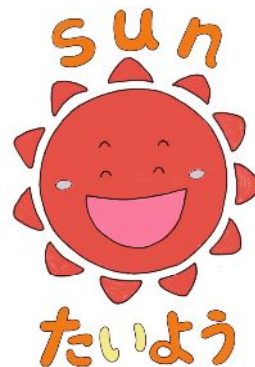
そして、その為に、自分のことが大好きで、自分のことが最後まで信じられる、失敗を恐れない子どもたちを育てたいと考えています。

仏様の言葉にこのような言葉があります。『失敗をしたときはそれまで自分が背負ってきた「業」を流して貰っている時である。だから失敗をしたときは赤飯を炊いて喜びなさい』

人間はどんなにいい人でも、どんなに太陽のように輝く、いい生き方をしているときも、必ずどこかで誰かに迷惑をかけていたり、世話になっていたたりします。

人間は一人では生きていけない動物だからです。自分がお世話をしていると思っている時でさえ、後から世話をしているその人によって自分が支えられていたことに気付くこともあります。反対に世話をしているつもりでもその人にいやな思いをさせているときもあります。

だから、どんなにいい人でも何かしら業を背負って生きています。



失敗をしたときに、悩んだり苦しんだりする中で、その失敗で今までの自分が知らない間に行ってきた過ちを流しているのです。私達は、知らない間に作ってしまった業を失敗によってゼロにしているのです。だから、業がたまるときに失敗をしてしまうのです。そう思うとき、失敗は失敗ではないと思うのです。逆に言えば、失敗をしないと思っている人はきっと、業を抱えたまま生きていくのかもしれませんが。失敗は人を成長させます。なぜなら業をゼロにしてそこから又再スタートできるからです。そして謙虚さを学べるからです。

もし、これからの人生に失敗と覚えることがあったとしても、失敗と覚えるその自分が自分を苦しめているに過ぎないのです。そして、失敗だと気づいた段階で、それはもはや、失敗ではないのです。失敗してもいいのです。失敗したからこそわかったことがたくさんあったはず。学んだことがあったはず。成長したはず。何かに気付いたはず。その失敗から学べる人にそだてたいのです。



「思い通りにならないから人生は面白い」のです。「想定内の行動は想定内の結果しか生み出さない、想定外の人生だからこそ、予測のつかない面白い結果がある」「分かっていることは分かっている範囲にしか変化しない、わからない選択だからこそ、想定外の変化も起きる」のです。あきらめないでチャレンジし続ける子どもたちを育てたいのです。それこそが、たった一度しかない人生を楽しむことでもあるからです。

すべては未来へ向かっての次へのステップ。何があってもすべてを楽しむことです。そうやって、体験を繰り返すによって人生が豊かになっていくのです。

ナポレオンは『我輩の辞書に不可能は無い』といったそうですが、彼の業績の三分の一は失敗でした。でも、彼は失敗ではなく、成功したほうに目を向けたのです。彼は自分が好きで、自分を最後まで信じられたから、劣等感を持たなかったのです。劣等感を持たなかったから、成功に目を向けられたのです。

「失敗をする人は、失敗をするから劣等感を持つのではなく、劣等感を持つから、失敗した方だけに目を向ける」のです。そして限りなく落ち込んで、自分の人生はすべて悪いものだと思ひ、暗くしていく」のです。

「成功をする人は、劣等感をもたないからこそ、たとえ失敗があっても、その失敗を教訓に、成功したことだけに目を向けることが出来て、プラスの方に目と考えを向けて、自分の人生を明るくしていく」のです。

人生には必ず、失敗も、成功も、マイナスも、プラスの面もあります。失敗の、失敗の、失敗の連続の先にあきらめなければ、必ずゴールという成功があるのです。自分にうそをつかず、最後まであきらめず、努力すれば、そのゴールが最初、目指したゴールと違っていても、自分に納得がいく新たなゴールが見つかるのです。

だから、最後の瞬間まで、自分を大好きで、自分を信じ、あきらめない心を持って人生を歩んでいく事が出来る子どもたちをゆりの樹は目指します。

失敗を人のせいにする人は、他人を恨み、他人の成功をねたみます。失敗をした時は、成功の時より、自分と向き合い、自分で決断し、自分の行動に自分で責任を取ることが大切です。もう一步踏み込んだ自己の探求が人を成長させるのだと思います。ここまで到達するには、時間が必要かもしれません。でも、自分が幸せになるためには人に幸せにしてもらおうとおもっては幸せになれないと感じるのです。人は何も無いときはいい、でも何も無い人生はありません。自分に回りに何かあった時、何を感じ、どのように対応し、自己決断できる人間であるのか、後悔ではなく自分自身を向上させる反省を持って、自分と向き合い振り返る事が出来るのかやはり人間教育では大切ではないでしょうか。

人はすべての答えを自分の中に持っています。責任をとれるのは自分だけです。人生は失敗の繰り返し、失敗の積み重ね、そうした失敗の繰り返しの中から、自分を見つめ、考え、学び取り、自分で責任が取れ、自分が責任を取った事だから、自己承認が出来るのです。「今できることをできることから精一杯やること」そしてどんなときも「言い訳をしない。いろいろなことがうまく出来なくても卑屈にならない。自己受容し、最後まで自分を信じる。そしてどのような状況も楽しみ、リラックスを得る。小さなすべてに感謝し、喜び心を持つこと」それが人生を、自分自身を生きやすくしてくれると確信しています。

ありふれた日常の中から、その小さな夢、幸せ、喜びを見つける力。その力が、生きるエネルギーを生み出していくのだと思います。昨年作った「10E」を大切にこの幼稚園生活を生きて行ってくれると嬉しいなあと感じています。「自分がこうしたい」という自分自身が目指すものがはっきりしているとき、人はその人間力を発揮できるのです。本当の賢さが育つのです。心がリラックスし、緊張や不安がない時、ありのままの自分のエネルギーは希望で明るく満ちてきます。

どうか、結果ではなく、人生のプロセスを楽しみ、感じたことを、伝えあい、最後まであきらめない心を大切に、悲しくても辛くても、何があってもそれを乗り越えていく事が出来る心を、自分の足でこの地球を歩いていく事が出来る自分を信じる心持ち続けてほしいと願っています。



今の自分がいい、あなたがいるだけでそれでいい、と思える私であること、ありのままでそのままで素晴らしいと思うことができれば、本当の幸せは必ずやってきます。そして、凛として、おだやかな人になることができます。自分の人生の主人公は自分。他人がどう思うか、人の評価だけに振り回されないで、生きることを意味を知って、

力強く、どっしりと、自分の足で立ち、自分の人生のシナリオは自分で作るパワーを持ち続けてほしいと願っています。

そして、自己決定したなら、もう別の道が選べないなら、あとは腹をくくって、自分が選んだ道がよかったと思えるような行動をとること、選んだ道が幸せだったと感ずることができそうな道を自分自身が歩むことです。そうすれば、全ての選択は幸せの道につながるのです。そしてそのことを幸せと感ずるか否かも自分次第です。幸せは誰かにしてもらうものではなく自分が感ずるものなのです。幸せは自分で作るものなのです。そんな幸せを感ずる、子どもたちに育ってほしいと願っています。

一人が頑張っても成長しても、良い教育は、環境は一人で完成できるものではありません。子ども達もいて、それを支えてくれる家族もいて、真摯な教育をめざす教師もいて初めて一つの教育が完成されます。共に育つことが、まず第一です。子ども達も、自分の力を十分に発揮してくれるでしょう。しかし、最後にこの幼稚園を作っている一員は自分だということを保護者の方にも覚えていてほしいのです。

これからの教育の更なる充実、私達一人一人に託されています。自分が良くなって、自分が向上しなくて、自分が不平不満をもっていて、いい仲間作りが出来るわけがありません。いい集団になるはずはありません。いい環境にするためには、まず自分からです。一人一人が、いい環境になっていただけると嬉しいです。そして皆でいい中身を作りましょう、そして親も教師も、子どもとそこで共に育ちましょう。最初から立派な人間はいないように最初から、一人前の親もいません。



そして、一人一人の力は小さくとも、一人一人は自信がなくても、家族で力をあわせればきっと素晴らしい事ができます。一人一人が助け合えば、**勇気**が湧いてきます。一人一人にはかけがえない、その人にしかない力があるのです。幸せの青い鳥はそれぞれの中の中に必ずいます。そのことに気づける自分があるかどうかなのです。だからどうぞ自分の存在に自信をもって、自分を認めて、前を向いて、子育ての道のりを、子どもとともに、ゆりの樹の職員とともに歩いていきましょう。

どんな出来事も、全てのできごとには肯定的な意味があります。自分にとって必要だからその事が起きているのです。「今ここ」に生きていれば、失敗はありません。過去に生きるから、失敗と後悔があり、未来に急ぎすぎるから、不安と焦りがあるのです。今にいればプロセスがあるのみです。今からどうするかが大切なのです。

そして、「神様は決して自分にとって不必要な体験はお与えにはならない」のです。その体験が、今の自分にとって、その体験が必要だから起こっているのです。まだその問題が未解決だから、悩むのです。苦しいのです。では自分に起こった問題から、神様は、私に何を学べと言っているのか、この問題から、私は何を学べるのか、そう受け止めることができたなら、問題はありがたい、自分の課題です。

そう受け止めることができたなら、どんな問題でもワクワクと楽しめるのです。前向きに、とらえることができるのです。たとえ、その時はつらく悲しくても・・・すべては自分次第なのです。

子ども達、保護者の方、そして私たち職員にとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわ

せて成長ります。子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ります。保護者の皆さんの人生もこのゆりの樹幼稚園で輝く人生でありますように。子どもたちの夢がこのゆりの樹幼稚園でさらにも広がりますように。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

最後に吉塚ゆりの樹はバスコース名称変更のお知らせです。

ゆりの樹に新しい若葉が育ち始めるように今年、バスコースが8コースになります。各バスコースの時間帯も短くなり、子どもたちの負担も少なくなり、園到着時間も速まり、保育もさらにスムーズに行くと考えております。

この改定に伴い、昨年までの色のバスコースの名称に合わせてコースの名前を変更したいと考えております。

この名称は、平成19年度、子どもたちのさらなる心とからだの健康を考えて作成しましたゆりの樹幼稚園の教育「10E」からとったものです。



★ゆりの樹幼稚園が考える10E

「輝く太陽めざし、未来の夢と希望に向かって、

愛と勇氣を持って、この地球を自分の足で歩んでほしい・・・

大樹のようにすくすく伸びる子どもたち・・・ゆりの樹幼稚園の願いです」

そして、その為に、自分のことが大好きで、自分のことが最後まで信じられる、失敗を恐れない、最後まであきらめない心をもった子どもたちを育てたい——これがゆりの樹の考える教育です。

これからとって、いままでのバスコースの色に合わせて下記のように名づけました。しばらく慣れるまで、お手数ですがご協力よろしくお願い致します。いつもゆりの樹の教育を意識しながら過ごすことができるようになったらいいなあと考えています。

1A	青コース	→未来コース	席田・志免方面
1B	黄コース	→希望コース	馬出・箱崎方面
1C	赤コース	→愛コース	千代・馬出方面
1D	黄緑コース	→大樹コース	比恵・志免方面
2A	紫コース	→勇氣コース	粕屋・笹松・松島方面
2B	緑コース	→地球コース	笹松・松島方面
2C	オレンジコース	→太陽コース	粕屋方面
2D	ピンクコース	→夢コース	照葉・千早方面

今年度からの新しい、バスコースの名称どうぞ可愛がっていただきますように宜しくお願い致します。

「玄海ゆりの樹」はクラス名称の変更です。下記のように名づけました。

年少 愛ぐみ → ピンク

本来は赤で考えておりますが、旧さくら上りの園児が同じ色になりますので、今年度のみピンクとします。

将来ニクラスになった時は夢ぐみ ピンク 愛ぐみ 赤色となります。



年中 希望ぐみ → 黄色 勇気ぐみ → 水色

年長 夢ぐみ → 赤色

本来はピンクで考えておりますが、旧さくら上りの園児が同じ色になりますので、今年度のみ赤色とします。

将来ニクラスになった時は、太陽ぐみ オレンジ 地球ぐみ 緑色となります

今年度からの新しいクラスの名称、どうぞ可愛がっていただきますように宜しくお願い致します。

そして今年から園通信を春、夏、秋、冬号としてお届けします。敏速に行事予定と教育内容をお知らせするためです。
また、インターネットも普及し、ホームページも充実してまいりましたので、ニュースマンスリーは省くことにしました。
あたらしい園通信も楽しみにしてください。

